

■校舎一体型小中一貫校におけるメリット・デメリット

メリット	デメリット
柔軟性・連続性を意識した教育 系統的・継続的な学習によって教育効果が高まることが期待される	小学校卒業の達成感がない 小学校と中学校の節目がなくなり、新たな気持ちの切り替えや進学するという充実感がなくなる
中1の壁の緩和、解消 学習環境・生活環境・人間関係などが大きく変化する中1ギャップの段差を緩和し、円滑な移行を促すことが期待できる	リーダーシップや自主性を養う機会の減少 小学校高学年時に学校行事において、重要な立場となりリーダーシップや自主性を養う機会がなくなる
異学年交流による精神的な発達 上級生から下級生に対する思いやりの心、下級生から上級生に対する憧れの気持ちなど精神的な発達や社会性の育成効果が期待される	年齢差があり交流に課題がある 小1と中3では発達段階に差があり、配慮が必要となる 思春期・反抗期の問題行動や振る舞いが低学年に悪影響を及ぼす恐れがある
児童生徒に対する継続的な指導 教員間で児童生徒の情報を共有しやすく、生徒指導を効果的に行うことができる	人間関係の固定化 同じ児童生徒の構成で過ごすことになるため、立ち直る機会が得られない場合がある
	教職員の業務量の増加 合同行事の打合せ時間の確保など業務量が増加し、児童生徒に関わる時間確保が難しくなる
・その他 教職員定数は変わらない	

■相互オープンスクールを実施した場合のメリット・デメリット

メリット	デメリット
<ul style="list-style-type: none"> ・それぞれの子どもが自分の個性に合った規模の学校で学ぶことができる ・選択や評価を通じて特色ある学校づくりが推進できる ・保護者の学校教育への関心が高まる 	<ul style="list-style-type: none"> ・小規模校の入学者が減少し、小規模校在籍者数が更に減少する ・期限を区切らないと就学予定者数の確定ができず、学級編制を遅延させる。また教職員数が定まらず、学校運営組織づくりが遅くなる。
・その他 「オープンスクール」という名称がわかりにくい	